

活気に満ちた心豊かで夢と希望の持てるまちづくり

行方市長 伊藤孝一

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。皆様方におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのことと思えます。私も、昨年と同様に本年も精一杯の努力をして、活気に満ちた心豊かで夢と希望の持てるまちづくりをすすめてまいります。

現在の日本経済は、景気がなかなか上向きにならず、急激な円高の影響もあつて憂慮される状況であります。行方市の台所事情についても厳しい状況が続いており、経常収支比率は高く、依然硬直した財政状況で起債等にあつては、なお一層の計画的な実施が必要であります。「子供たち、お年寄りが安心して生きる喜びを分かち合えるまち」や「公正・公平な偏りのないまちづくり」を骨子として、総合計画に掲げる事業を行政改革の方針に沿って推進していきます。

具体的な予算編成としては、学校等適正配置実施計画に伴う学校統廃合事業を最優先として、合併特例債が活用できる平成27年度までに集中的に実施をしたいと考えております。学校統廃合事業の平成23年度事業の内容は、新設の麻生中学校、麻生小学校と玉造中学校等の整備を予定し

ております。そのほかにも整備としては、道路関係の工事は積極的に行い、生活環境の向上に寄与していきたいと考えております。

行方市の主要産業は農業であります。霞ヶ浦と行方台地から収穫される農産物、水産物、畜産物の恵みをPRするため、私自身が先頭に立つてトップセールスを行い、全国展開を推進していきます。また、雇用の確保を図るため、生産、加工、販売を一体的に行う第6次産業の育成にも努めてまいります。さらには、北浦複合団地への企業誘致にも積極的に取り組んでいきます。

観光面におきましては、霞ヶ浦ふれあいランドや観光物産館「こいこい」への集客力の拡大、天王崎公園の周辺整備などを計画しております。また、茨城空港を利用される国内外の方に、行方市を訪れてもらえるようマスメディアやホームページを活用し、知名度アップを図ります。

新しい年が市民の皆様にとりましますます喜びの多い豊かな年であり、心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。



新年のごあいさつ

行方市議会は本年4月に任期満了を迎えます

行方市議会議長 平野晋一

明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、自然界、そして私たち人間の社会にも様々な出来事がありました。ハイチ、チリ、中国青海省での大地震、そして、平均気温において、113年の観測史上最高を記録した猛暑の夏など、文明の無力さを痛感する一年でした。政治や経済においても、相変わらず続く世界的な景気低迷や東アジアの政情不安がわが国を包み込み、国家の運営がどうあるべきか、一人一人が、もう一度しっかりと考えなければならぬと思われました。また、国内においては、宮崎県で「口蹄疫」が発生し、畜産農家の多い本市でも消毒作業など、その対応に追われました。一方、バンクーバーオリンピックやサッカーワールド杯などにおける日本選手の大活躍は、私たちに大きな勇気を与えてくれました。

そして3月には、県民待望の茨城空港が開港しました。地方空港の是非が問われる中での開港でしたが、まもなく一年になろうとしています。この間、多くの方々が利用され、さ

らに地域の活性化に結び付けようとする様々な活動も活発に行われています。茨城空港は、本市の活性化に向けて大いに期待できるものと確信しております。

私たち行方市議会議員は、本年4月21日で今期の任期が満了します。また、次期からは、議員定数を20名と定めたところです。本年は、第二代議会の最終の年ではありますが、引き続き議会の改革と活性化に向け取り組んでまいります。地方分権が進められる中、市民の皆様にとって必要な事業を実現するために議会に与えられる役割はますます大きくなります。本市におきましては、少子高齢化が進む中、学校の統廃合、定住化促進、医療と福祉の充実、産業振興、生活排水対策等々、多くの課題が山積しております。

これらの課題をふまえて、財政状況等が極めて厳しい折ではありますが、課題克服のため英知を結集し、皆様とともに明るく住み良いまちづくりを目指し努力してまいります。

結びに、今年一年が、市民の皆様にとりまして幸せ多い年でありますようお願い申し上げますとともに、皆様方の一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。年頭のごあいさついたします。

